



(1) 数理・データサイエンス・AI教育

2021年度からリテラシー（基礎）レベルとして「データ・AIと社会」を開講。2023年度からは共通教育科目に「データサイエンス科目群」を設け、リテラシーレベルに続く科目を設置。基礎から応用まで段階的・体系的に学べる機会を全学部・全学年の学生向けに提供していく。

(2) ソフトバンク・LINEとの包括連携協定

正式名称は「先端技術を活用した新しい学生生活の実現・研究に関する包括連携協定」。スマートキャンパス化を推進し、Society 5.0をリードしていく人材育成を目指す。AR（拡張現実）サービスやVR（仮想現実）演習室、インタラクティブ掲示板、食堂やバスなどの混雑状況配信ソリューション、顔認証システムなどを導入予定であるほか、窓口申請のデジタル化や証明書発行などにおけるキャッシュレス決済サービス等の導入を想定し、学生生活の利便性向上を図っていく。

(3) 共同研究推進サポート制度  
(共同研究プロジェクト運営支援)

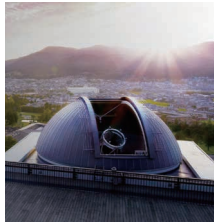
京都産業大学の知を結集した新たな領域への挑戦や、卓越した成果が期待できる"共同研究"に対して支援を行う制度。設立初年度となる2022年度は3件の研究課題が採択され、いずれも複数の学部の教員が連携する学部融合の研究内容となっている。

(4) アントレプレナー育成プログラム

全学部が参画する文理融合の正課教育として2023年度にスタート。起業活動の拠点となる新たな施設をキャンパス内に設置するほか、起業支援の充実に向けて産業界との連携も進めていく。

(5) 公益財団法人大学コンソーシアム京都

京都エリアの大学間連携と相互協力を推進し、加盟する大学や短期大学の教育・学術研究水準向上や、成果の社会還元を目的としている。学生向けには、他の大学や短期大学の授業で取得した科目の単位が自大学での取得単位としてみなされる単位互換制度などを運用している。



した授業などの技術的な障壁が低くなり、ドローンやロボットとの通信がスムーズになることで、研究環境も向上。

顔認証システムの導入によるセキュリティ対策の強化など、大学運営におけるメリットも期待されます。



くろきあきら  
**黒坂 光学長**  
1981年京都大学薬学部薬学科卒業。86年同大学大学院薬学研究科製薬化学専攻博士課程修了。専門は生化学。京都産業大学教授、副学長等を経て2020年より現職。公益財団法人大学コンソーシアム京都の理事長も務める。

京都産業大学は、高名な宇宙物理学者である荒木俊馬によって1965年に創設されました。「将来の社会を担って立つ人材の育成」を建学の精神に掲げ、「学問と産業をむすぶ」という教育理念のもと、理学部と経済学部の2学部でスタート。現在は文系・理系合わせて10学部体制となり、外国人留学生を含む1万5000人を超える学生が、京都市北区の神山キャンパスに集結する西日本有数の「一拠点総合大学」へと発展しました。

ワンキャンパスに多くの学生が集うからこそ、学生はダイバーシティを肌で感じながら新たな価値観に触れ、自己成長につなげることができます。加えて、創設以来の伝統である産学連携プログラムや、アントレプレナー育成プログラム、学部横断型の研究推進など、学生を成長させる取り組みが多角的に進められています。

# 京都産業大学

〒603-8555 京都府京都市北区上賀茂本山 入学センター TEL 075-705-1437 <https://www.kyoto-su.ac.jp>

## 多様な豊かな全国屈指の「一拠点総合大学」。 デジタル技術を駆使し、学問と産業界を 結びつけ、次代を拓く未来人材を育成する

### 揺るがぬ建学の精神 学問と産業を「むすぶ」大学

京都産業大学が開学した1965年は、日米安保問題などで大学教育も機能不全に陥った混沌の時代でした。創設者・荒木俊馬はそうした風潮とは一線を画し、最高の教育研究機関として「将来の社会を担って立つ人材の育成」を建学の精神に掲げて大学を設立しました。社会背景は異なるものの、現代も当時と同じく先行きの不透明な時代であり、建学の精神こそは教職員が一枚岩になるために立ち返るべき最も大事なアイデンティティーなのだと言います。黒坂光学長は話します。

「荒木先生は学問と産業を『むすぶ』大切さを説き、本学を京都『産業』大学と名づけました。当時から『産学協同』という名称で多くの取り組みが進められ、現在の産学連携プログラムへと発展しています。本学は常に原点に立ち返ることを全学的な共通認識として、未来社会に向けた教育研究に取り組んでいます」

### 神山天文台での研究に注目 学部横断型研究も推進

京都産業大学は、国内の私立大学では最大規模の反射式望遠鏡を備える「神山天文台」を活用した研究が広く知られています。著名な宇宙物理学者であった荒木俊馬は開学当初から天文学に注力しました。今日では、JAXA（宇宙航空研究開発機構）の金星探査機「あかつき」による観測データの解析や、観測装置の開発等が国際的にも高く評価されるレベルまで研究を進展させました。

スタートアップ企業による宇宙ビジネスをはじめ、より高度な宇宙開発が加速する今日、神山天文台を活用した研究をいかに発展させ、教育につなげていくかに期待が集まっています。「本学では『タンパク質動態研究所』や『世界問題研究所』などの研究も高く評価されているのははじめ、2022年度には学部横断型による共同研究推進サポート制度が始まりました。社会的課題の多くは、単一の要因が複雑に絡み合い、単一

自治体と包括連携協定を結び、学生が地域の課題解決に取り組んでいるほか、産業界や各種団体など、学外との連携を重視しています。産業界の課題解決をはじめ、国際文化都市・京都だからこそ経験できる文化的な課題解決などに挑戦する際には、実社会での経験と気づきが不可欠です。学生が学内で得た知識や技術を学外で体験、体感、実践することで、学んだ内容を深化させ、学修効果が最大化されていくのです。

### 文系・理系全10学部が ワンキャンパスに集結

人文・社会科学から自然科学まで10学部、1万5000人の学生が一堂に会する京都産業大学は、キャンパス自体が広大なダイバーシティ空間です。緑豊かで自然にあふれた環境も魅力で、「ラーニング」「グローバル」「スチューデント」「ナレッジ」の4つのコモンズをはじめ、4号館に新設された「Innovation Hub」など、学生が学修やブレゼンテーションで自由に楽しく過ごせる創造性豊かな空間が設計されています。

「学生が視野を広げるためには、人文・社会・自然科学という分野の垣根を越えた交流が必要です。本学の場合、例えば共通教育科目の教室に入れば10学部の学生と机を並べることになり、クラブ活動やサークル活動でも自分とは異なるバックグラウンドを持った学生と触れ合い、多様性を認識することがで

学部の知見だけでは解決が困難だからこそ、複数の学部の教員が協働でアプローチする研究を支援しています。2016年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大隅良典先生は、『基礎科学を文化として捉える社会』になってほしい」といった旨のお話をされたように、教員にはしっかりと基礎研究を進めてほしいと考えています。真摯に研究に向き合い、その成果を教育に還元しようとする教員の姿を見て学生は誇りを感じ、学業への意欲を高めるものだからです」

（黒坂学長）

### 屈指の「就職に強い大学」 起業家教育も新たに展開

京都産業大学ではすべての学生に対し、海外留学を推奨しています。留学プログラムは世界31カ国86大学（23年2月現在）に及び、全国に先駆けて海外インターンシップに取り組んできたことも知られます。学部ごとの専門教育に加え、データサイエンス関連やグローバル教育さらには「キャリア形成支援教育科目」や「O/OCF/PBL」（大学での学びとオンキャンパスと実社会のオフキャンパス）での学びを融合させた実践志向型の課題解決型学習など独自のキャリア教育により鍛えられた学生たちの就業力は企業から高く評

きます。本学では今後も教育・研究の両面で、学部の壁を越えた取り組みを進めていきます」（黒坂学長）

### 高速5G環境の導入で スマートキャンパスへ

急速に進むデジタル化に対応した教育プログラムも特徴で、全学共通教育科目「データ・AIと社会」が文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されたほか、教員が学部の壁を越えてカリキュラムを構築し、学生に提供しています。

また、教育や研究など学修の仕方そのものをアップデートする「デジタル教育改革」も進めています。特に動画を活用する教育スタイルに注力し、事前学習用のデジタル教材を動画で準備するほか、対面での講義内容を録画し、復習用にオンデマンド配信などの改革が実践されています。コロナ禍でノウハウが蓄積され、従来のスタイルとデジタル活用との融合が進んでいるのです。

こうした中、今年5月には、次世代型の「スマートキャンパス」構築に向けた取り組みとして、ソフトバンク株式会社およびLINE株式会社と包括連携協定を締結。高速5G環境を導入し、新たな産学連携を模索する動きや、より効果的な教育・研究につなげる動きが加速しています。例えばVR（仮想現実）技術を駆使した授業や、海外の大学と連動

評価され、22年度の就職率も97.7%と「就職に強い京都産業大学」の評価を裏証しています。さらに、近い将来は産業構造の劇的な変化も想定される中、10学部の教員が協力して体系的なプログラムを開発した「アントレプレナーシップ教育」にも注目が集まっています。

「日本の歴史ある大企業も、元々は小規模なベンチャー企業です。そこで、起業に向けた最初の一步を踏み出そうとする学生を後押しすることがアントレプレナーシップ教育の狙いです。ゼロベースでの起業だけでなく、家業を継ぐ予定の学生が発展的な事業承継に向けて学べることも多いプログラムです」

さらに、公益財団法人大学コンソーシアム京都の理事長も務める黒坂学長は、受験生に向けて次のようなメッセージを送っています。「現代は世界が大きく、かつ急速に変化する難しい時代であり、将来に不安を抱いてしまう瞬間もあるかと思えます。それでも決して悲観することなく、自らの力で未来を切り拓いていくこととする強い気概を持って大学生活を送ってください。多くの外国人観光客が集まる京都は国際感覚にあふれ、学びの場としては絶好の街です。また、大学コンソーシアム京都では他大学との単位互換制度も整備しています。学内だけでなく、京都という街全体をキャンパスに見立てて、刺激に満ちた幅広い学びに触れてほしいと思います」